

新東ファミリー



平成22年12月25日 (隔月発行) 発行所 (株) 新東調理士会

会報誌で振り返る二〇一〇年
二〇一〇年ダイジェスト鰻版

今年も残すところあとわずかとなりました。そこで二〇一〇年を会報誌と共に振り返り振り返り思い出してみたいと思います。皆様のご意見はどんな一年だったのでしょうか。

二〇一一年も会報誌を通じて様々な情報をお届けしてまいりますので、何卒、宜しくお願ひ申し上げます。

◇出来事評価はうな井 ●普通盛 ●大盛 ●メカ盛

◆会報誌二二号(二月発行)◆



幕末ブームにはじまった二〇一〇年 新東会では、NHK時代劇ドラマ「咲くやこの花」で、鰻職人役の佐野史郎さんへ技術指導の協力をしました。また、会報誌では「幕末！大江戸巡りと鰻の散策」として、特集記事を掲載。独自の視点で幕末を紹介しました。 ●大盛

◇二月二月の主な出来事◆

- ハイチ大地震、死者約十五万人
- トヨタ自動車、北米販売を一時中止
- 横綱 朝青龍が引退
- バンクーバー冬オリンピック開幕

◆会報誌二二二号(四月発行)◆

上海万博が開幕、農林水産省が、鰻の完全養殖化の成功を発表



農林水産省大臣が記者会見にて、鰻の完全養殖化の成功を発表。会報誌では「日本の技術力を海外へPRしているのでは」と推測。また、上海万博に伴って、食イベントのメニュー、メニューの特集記事で掲載しました。 ●大盛

◇三月四月の主な出来事◆

- フコシマダの国際取引禁止を否決
- 東京スカイツリーが高さ日本一に
- 宇宙飛行士、山崎寛子さんの宇宙へ

◆会報誌一四号(六月発行)◆



会報誌完全リニューアル、サッカーW杯で日本代表大活躍 二〇〇八年の創刊号から三年目を迎えた新東ファミリーをリニューアル。

アル。サッカーW杯では、日本代表が前評判を覆して大活躍。不況が続く日本にとって明るい話題となった。 ●メカ盛

◇五月六月の主な出来事◆

- 宮崎牛の種牛、口蹄疫の感染疑い
- 多機能携帯端末「アイパッド」が発売
- 鳩山首相が辞任、菅内閣がスタート
- サッカーW杯、日本ベスト十六入り

◆会報誌一五号(八月発行)◆



記録的な猛暑が続く、鰻業界は大忙し、野球賭博で相撲協会は大揺れ 会報誌では、昨年に続いて、街頭アンケートを実施。多くの方が昨年より鰻の消費が増加とコメント。そのコメントが示す通りで、鰻業界は大盛況の夏であった。一方、世間では、野球賭博の影響で、名古屋場所ではNHKのTV中継が中止となり、相撲協会は大揺れとなった。 ●メカ盛

◇七月八月の主な出来事◆

- 相撲協会は、大嶽親方と琴光喜を解雇
- 米大使、広島平和式典に参列
- 百歳以上の高齢者、行方不明相次ぐ
- 六月、八月の平均気温、観測史上最高

◆会報誌一六号(一〇月発行)◆

秋に入り鰻業界も、落ち着きを取り戻す。新東会では、江戸前蒲焼PR活動を再開。朝までワナギ討論会。新東会では、秋に入り、江戸前蒲焼PR活動を再開。一〇月、十一月と続くイベントや講習会の準備作業に追われる。会報誌でも、これまでの活動を分類し、それぞれの長所、短所を特集記事として掲載。世間では、中国との尖閣諸島問題で日本中が大騒ぎとなる。 ●大盛



◇九月一〇月の主な出来事◆

- 尖閣沖接触、中国船舶長を逮捕
- ノーベル化学賞、日本人二人が受賞
- 羽田国際線、新ターミナルがオープン
- チリ落盤事故、三十三人全員が生還

ダイジェストのまじり

今年一年間を振り返ると、年頭は、「シラサガ少ない」という情報からスタートしました。しかし、夏場には何とか間に合いましたが、猛暑の影響により、鰻の消費は格段に上昇。これは喜ばしいことではありますが、その反動で、一〇月、十一月の落ち込みは例年以上に大きくなり、あらためて、秋、冬と年間を通して安定できないだろうか？という思いを感じました。秋以降は落ち着いたと思えますが、皆様、一年間、本当にありがとうございました。そして、二〇一一年も何卒、よろしくお願ひ申し上げます。

新東調理士会 スタッフ一同より

お知らせ情報

新規オープンのお知らせ

- 「ひょうたん」渋谷松竹プロデュース 渋谷区桜丘三三二
- 渋谷文化センター大和田二階
- 「千歳烏山 鰻 あさ井」 世田谷区南烏山五二一四
- 「ユルル地下二階」 千代田区下町

お知らせ

- 平野 雄司さん (享年四四歳)
- 十一月二日お亡くなりになりました。謹んでお悔やみを申し上げます。



新東会 江戸前ニュース

新東調理士会が取り組んでいる、江戸前蒲焼のPR活動や取り組みを、様々な切り口で紹介いたします。



人と人の結びつきが



業界を活性化する。

●台湾鰻視察 研修旅行

一月三日〜六日、全浦連・東浦主催で、台湾産鰻の視察研修ツアーが開催されました。この研修ツアーは今回で二回目ですが、業界トップが主軸となり、参加者も蒲焼店オーナー、問屋、タレメーカー、商社、研究者、そして新東会からは、次長の湯浅祐司が参加しました。また、台湾側も業界団体トップがアテンド役となり、非常に有意義な視察となりましたのでご報告いたします。



日台、双方で意見交換

りました。まず一つは、安心・安全における管理体制がどうなっているのか、自分自身の目で確認したい。二つ目は、生産者に直接会って、その考え方を聞いてみたい。という点でした。今夏、台湾産活鰻は日本にとって重要な役割を果たしました。今後においても台湾産鰻は、注目するところだと思います。そういう意味では、双方がダイレクトに意見交換をすることができ有意義でありました。



生産者は練り鰻を強調

で、ゆつたりと育てられているという印象でした。台湾サイドが強調していたのは「美味しい鰻づくりのために、練り鰻を使っている」ということでした。

広大な露地池で品質管理

まず最初に見学したのは養鰻場です。広大な露地池



工場では試食もしました

台湾生産者の意気込みを感じました。今回の研修ツアーでは、台湾は、日本を重要な輸出先としており、今後、さらに品質が向上すること期待感を感じるよい研修ツアーになったと思います。

●市原市「うまいもの祭り」

一月二日、千葉県市原市にて市原市の食が一堂に集まる「うまいもの祭り」が開催されました。このイベントは、市原市商工会議所が主催し、八幡屋の中村雅人社長が地域活性化のために、一千食以上の鰻を無料で配布しました。新東会では、イベント当日、鰻を捌いたり、焼いたりするために、職人を派遣し協力させていただきました。この日、鰻のブースでは香ばしい匂いが漂い、長蛇の列が並び大賑わいとなり盛況に終わりました。



香ばしい匂いに長蛇の列が並び大賑わいとなり盛況に終わりました。

●第四七回 鰻魚供養大放生会



新加入の若手職人も紹介。一月一日、青山にあります持法寺にて「第四七回 鰻魚供養」を開催しました。会は、東

浦組合の、三田俊介理事長、全浦連の涌井恭行理事長、さらに、宮川本廬の渡辺安良社長、それぞれの方にご挨拶をいただきました。また、今回は新東会が以前から取り組んでおります若手職人獲得の講習会の成果として、新加入二名を紹介しました。その後、隅田川に鰻を放流し鰻の養を無事に終りました。

●新宿調理師専門学校 講習会



講師の手先を熱心に観察

十一月二十四日、新宿調理師専門学校にて講習会を開催しました。今回は、一年生を対象に、午前四一名、午後四二名に指導しました。この講習会も回数を重ねることで、指導する講師、参加する生徒、さらに受け入れる学校側の意識も高まっております。新東会としてはやりがいを感しております。来年度も、益々精力的に取り組んでまいりたいと思います。来年度は正式な授業として依頼がありました。引き続き皆様のご協力をお願いいたします。

職人たちの鰻づくり

私は、創業昭和四一年、鰻・天ぷら専門店「鰻若松」に勤めています。平成二年一月に京急蒲田駅近くへ新築移動し、この辺りでは目を引く、和風モダンな建物です。昔からのお得意様、新規客とバランスよく、さらに、宴会等のご予約も多く、毎日多忙な日々を過ごしています。

そんな中、河原社長、山本料理長、仲間たちと共に、お客様から「うまいねえ、また来ちゃったよ!」という言葉が嬉しくて、真心込めて一生懸命頑張っています。皆様、これからも鰻若松と須田泰を宜しくお願いいたします。



須田 泰さん「鰻若松」職人
大田区南蒲田1-22-6
大田区産業プラザP10前
TEL:03-3734-8018

須田さん紹介、次回のゲストは「美國屋」の「飯田 敬人」さんです。

会報誌【新東ファミリー】は業界発展のため精力的に取材活動を行います。ご意見、ご要望などございましたら、編集部にご連絡ください。

2011年土用丑の日は7月21日(木) 8月2日(火) TEL.03-3582-4721 info@chourishi.co.jp

